

氏名	今泉 裕美子 (いまいずみ ゆみこ) 教授
こんな研究をしています	<ul style="list-style-type: none"> ・国際関係学の方法論…日本における国際関係研究の歴史と現状を、特に植民政策研究を軸に、また行為体の多様化とその役割、「総合のなかの専門性の追究」に視点を据えて研究している。 ・ミクロネシアと日本（沖縄など個別の地域を含む）との関係の歴史および現状を、アジア及び太平洋島嶼をめぐる国際関係の中で追究している。具体的には、①日本の南洋群島統治政策、②日本統治下ミクロネシアの人々の実態、③沖縄を中心としつつ北海道、八丈島、東北など日本各地、朝鮮半島、台湾等からの「移民」・戦時動員・引揚げ、④太平洋戦争と米軍占領、⑤米国による戦略的信託統治、⑥「復興」と脱植民地化、⑦南洋群島帰還者の諸活動（諸団体の形成、再渡航運動、補償請求、生活再建、慰霊、ミクロネシアとの「交流」）、⑧旧南洋群島を生き残った人びとの植民地・戦争経験、⑨戦後日本の太平洋島嶼政策。
こんな成果を挙げています	<ul style="list-style-type: none"> ・「豊南業株式会社による「南洋農業移民」 李盛煥他編『近代朝鮮の境界を越えた人びと』日本経済評論社、2019年。 ・「近年の「引揚げ」研究の視点と本書の課題」、「パラオ諸島をめぐる民間人の「引揚げ」 今泉裕美子他編『日本帝国崩壊期「引揚げ」の比較研究—国際関係と地域の視点から』日本経済評論社、2016年。 ・「太平洋の「地域」形成と日本—日本の南洋群島統治から考える」 李成市他編『岩波講座日本歴史第20巻（地域論）』岩波書店、2014年。 ・「南洋群島研究」 鴨下重彦他編『矢内原忠雄』東京大学出版会、2011年。 ・「第五部 第二章 移民社会 第一節南洋」(財)沖縄県文化振興会史料編集室編『沖縄県史（各論編第5巻近代）』沖縄県教育委員会、2011年。
ほかに、こんなジャンルに関心をもっています	<ul style="list-style-type: none"> ・植民地経験や戦争経験、これらをめぐる当事者や非当事者の歴史認識の形成、地域社会との関係。 ・うた、音楽、演劇、絵画、写真、モノなどにみる「南洋群島」。 ・史・資料調査や聞き取りの方法。聞き取りの記録化、論文化について。 ・『具志川市史』、『沖縄市史』、『沖縄県史』の執筆、市史スタッフとの調査を通じて地域社会・市民にとっての「歴史」とは何かを学び、考え続けている。
こんな授業を行なっています	<p>日本の植民地政策とその下で形成された植民地社会、そこに生きた人々の暮らし、仕事、運動、移動など、また彼らにとってのアジア・太平洋戦争と戦後、脱植民地化の過程を、国際関係学、歴史研究を軸に行う。聞き取りの方法、史・資料調査の方法。</p>
学会や社会でこんな活動をしています	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学研究会、日本植民地研究会（理事）、同時代史学会、日本移民学会 ・米国議会図書館南洋庁関係史料の整理・目録作成。琉球大学図書館「矢内原忠雄文庫」南洋群島関係史料の整理・目録作成、「矢内原忠雄文庫南洋群島関係資料展」（資料概要と整理の過程は http://manwe.lib.u-ryukyu.ac.jp/yanaihara/about.html） ・沖縄大学地域研究所「ミクロネシアと沖縄研究会」（2009年度）、活動の一環として「土曜教養講座 ミクロネシア基礎講座」（全2回）第1回担当（2010年11月6日）。 ・ギャラリートーク「赤松俊子の旅した『南洋群島』」 原爆の図丸木美術館・企画展「赤松俊子と南洋群島」（2015年3月28日）。 ・沖縄県立博物館・美術館「美術家たちの「南洋群島」展（2008年11月7日 - 2009年1月18日）の展示検討委員。 ・北マリアナ諸島の教員向け講座で日本時代の南洋群島について講義（2006 Teachers Institute held by NMI Council of the Humanities (Saipan, NMI, 09/09/2006)）。